

～「たまご広告」のしくみを利用～ こども記者の取材記事を、「たまごのパック」に掲載

5月中旬から6月下旬まで発売

社団法人 日本卵業協会

社団法人 日本卵業協会(住所:東京都中央区、会長:岩月忠和)は、「たまご」の安全性を一般消費者に啓発する目的で、2008年3月24日に「春休みこども記者 たまごの故郷を見に行こう! 養鶏場見学ツアー」を実施しました。

そしてこの度、ツアーに参加したこども記者の体験取材レポートを、「たまご広告」の仕組みを利用して「たまごのパック」に掲載し、ダイエーおよびグルメシティを含むダイエーグループの店舗(北海道エリアを除く)で2008年5月中旬～6月末までの間、約 50,000パックが販売されることが決定しました。(※たまご広告概要は別紙参照)

日本は、国民一人当たりの年間たまご消費量が約330個という、世界でも有数のたまご消費大国です。「春休みこども記者 たまごの故郷を見に行こう! 養鶏場見学ツアー」は、消費者の“食の安全性”に関する意識が高まっている最中、日本人にとっては身近な食品であるたまごの生産現場を消費者自身の目で実際に見てもらうことによって、たまごの「安全性」を確認してもらい、毎日の食生活で安心してたまごを食べてもらうことを目的として行いました。

このツアーは、一般公募で選ばれた「こども記者」(親子4組8名)が、最新鋭の設備を備えた養鶏場、株式会社トマル(群馬県前橋市)を訪問し、養鶏場(たまごの採卵)からパッキングセンター(たまごのパック詰め工場)の工程を見学しました。さらに、普段何気なく食べている物にも多くのたまごが使用されていることを学ぶため、こども記者たちはたまごの調理と試食にもチャレンジ。



パッキングセンターを見学
説明を真剣に聞くこども記者

最後に、このツアーの集大成として、一日かけて取材したことを記事にまとめてもらいました。



卵質検査



たまごを使ってプリンづくりに挑戦



参加者全員で記念撮影



一日を振り返り体験記事を書くこども記者

【こども記者が書いた記事を「たまごのパック」に掲載】

そしてこの度、こども記者が書いた体験取材記事が「たまごのパック」の上貼りラベルに印刷され、ダイエーおよびグルメシティを含むダイエーグループの店舗(※北海道エリアを除く)で、5月中旬より6月末までの間に、約 50,000パックが販売されることとなりました。

当協会が開発した「たまご広告」の仕組みを利用して、「たまご」を「メディア」とすることで、こどもたちが実際に食の生産現場を見て、聞いて書いた体験記事を通して、家庭の食の安全を守る主婦層を中心とした方々に向けて、たまごの「安全性」を訴求いたします。



こどもが書いた記事がたまごのパッケージに

《報道関係者の方からのお問い合わせについて》

- 社団法人 日本卵業協会 〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館
TEL:03-3297-5553/FAX:03-3297-5554
- 日本卵業協会 PR事務局(株)サニーサイドアップ内 担当:松山・島谷・島村・石川
TEL:03-6825-3388/FAX:03-5413-3050